

廃炉ロボで復興伝える

福島高専生と卒業生、出展



来場者にロボットを紹介する佐々木さん（中央）と佐久間さん（福島高専提供）

核燃料回収を想定、実演

福島高専の生徒と卒業生の3人は18日、大阪・関西万博で始まった「EXPO共鳴フェス」万博から描く未来社会の技術「デザイン」ブースを出展し、東京電力福島第1原発の廃炉に役立てようと製作した廃炉ロボットを紹介した。生徒らは最終日の19日もイベントに参加する。

国内外の高専30校が集まり、ロボットやものづくり、エネルギー、食、防災などをテーマにした研究成果をそれぞれのブースで紹介。同校からは機械システム工学科3年の佐々木希奈さん（18）と、昨年度に同校を卒業した長岡技術科学大3年の塚田愛由希さん（20）と会

社員佐久間太さん（21）が参加した。同校のテーマは「廃炉ロボット開発を通じて地元復興への取り組み」。3人は昨年、全国の高専生が廃炉ロボットの技術を競う「廃炉創造ロボコン」に出場した。今回はその大会で製作した、原子炉格納容器底部にある溶け落ちた核燃料（デブリ）を回収するロボットを実演した。

「万博に出るなんてびっくりだった。でも廃炉をいろんな人に伝えるには良い機会だと思った」と佐々木さん。「廃炉という言葉を知らない人多くて驚いた。廃炉だけでなくロボットにも興味を持ってもらえれば」と復興に向かう本県のアピールに力を注ぐ覚悟だ。

▲ 6月19日 福島民友新聞掲載

5W1Hを読み解こう

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。（330字程度）

いつ
(When)

どこで
(Where)

だれが
(Who)

なにを
(What)

どのように
どうやって
(How)

なぜ
どうして
(Why)

核燃料の回収ロボット製作を通して、廃炉に貢献しようとする姿をどう思いますか？



「ジュニア窓」にとうこうしよう

福島民友投稿のページ「窓」に送る